

JIS

液相重力沈降法による粒子径分布測定方法— 第1部：測定的一般原理及び指針

JIS Z 8820-1 : 2002

(ISO 13317-1 : 2001)

(APPIE/JSA)

平成 14 年 7 月 20 日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本工業標準調査会 基本技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	今井 秀孝	独立行政法人産業技術総合研究所
(委員)	大井 みさほ	東京学芸大学名誉教授
	尾島 善一	東京理科大学理工学部
	加藤 久明	日本デザイン学会
	小松原 仁	財団法人日本色彩研究所
	橘 秀樹	東京大学生産技術研究所
	田森 行男	財団法人日本品質保証機構
	徳岡 直静	慶應義塾大学理工学部
	藤咲 浩二	社団法人日本産業機械工業会
	前原 郷治	社団法人日本鉄鋼連盟標準化センター
	村上 陽一	社団法人日本電機工業会
	山村 修蔵	財団法人日本規格協会

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：平成 14.7.20

官 報 公 示：平成 14.7.22

原 案 作 成 者：社団法人日本粉体工業技術協会 (〒113-0033 東京都文京区本郷 2-26-11 種苗会館ビル TEL 03-3815-3955)

財団法人 日本規格協会 (〒107-8440 東京都港区赤坂 4 丁目 1-24 TEL 03-5770-1573)

審 議 部 会：日本工業標準調査会 標準部会 (部会長 杉浦 賢)

審議専門委員会：基本技術専門委員会 (委員長 今井 秀孝)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 標準課産業基盤標準化推進室 [〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1 丁目 3-1 TEL 03-3501-1511 (代表)] にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第 15 条の規定によって、少なくとも 5 年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

まえがき

この規格は、工業標準化法第 14 条によって準用する第 12 条第 1 項の規定に基づき、社団法人日本粉体工業技術協会(APPIE)/財団法人日本規格協会(JSA)から、工業標準原案を具して日本工業規格を部編成に分割制定すべきとの申出があり、日本工業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が制定した日本工業規格である。

これによって JIS Z 8820 : 1990 は廃止され、JIS Z 8820 群に置き換えられる。

今回の制定では、日本工業規格と国際規格との対比、国際規格に一致した日本工業規格を作成するために、ISO 13317-1:2001, Determination of particle size distribution by gravitational liquid sedimentation methods—Part 1 : General principles and guidelines を基礎として用いた。

構成は、国際規格と同様とし、廃止前の JIS Z 8820 : 1990 を、JIS Z 8820-1 (液相重力沈降法による粒子径分布測定方法—第 1 部 : 測定的一般原理及び指針) と JIS Z 8819-1 (粒子径測定結果の表現 第 1 部 : 図示方法) に分離させるとともに、内容を国際規格に整合させた。

この規格の一部が、技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願に抵触する可能性があることに注意を喚起する。主務大臣及び日本工業標準調査会は、このような技術的性質をもつ特許権、出願公開後の特許出願、実用新案権、又は出願公開後の実用新案登録出願にかかわる確認について、責任はもたない。

JIS Z 8820-1 には、次に示す附属書がある。

附属書 A (参考) 測定スリット幅の影響

附属書 B (参考) レイノルズ数の関数としてのストークス則の精度

附属書 C (参考) ブラウン運動による粒子の移動

附属書 D (参考) 外部と通じた細孔の球形粒子終末沈降速度に関する影響

JIS Z 8820 群は、次の各部からなる。

第 1 部 : 測定の一部原理及び指針

第 2 部 : ピペット法 (予定)